

## 《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

### 【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成19年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

単位認定の状況については、都合により、平成19年度入学生データを掲げることにした。また、共通科目の単位認定については、保育科およびキャリアデザイン学科の合併授業が多いため、今回は学科ごとではなく、一括したデータを掲げている。

本学では履修した科目の受験資格をもち、試験またはこれに相当する成績結果によって単位を認定している。その評価はA(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4段階で表し、Dを不合格としている。不合格の場合は受験料(3,000円)を別途支払って再試験を受けることができるが、その際的评价はCまたはDとなる。

講義科目については筆記試験およびレポートで評価されることが多く、演習科目の場合は筆記試験・実技試験・レポート・作品提出など、実習科目の場合は実技試験やレポートによる場合が多い。また、とくに演習・実習科目においては授業への出欠席調査が厳密に行われ、その結果が評価に加味される場合がほとんどである。

#### 1. 短期大学部19年度入学生の単位認定状況表(共通科目)

授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の取得状況%			最終の評価%			
				本試験	再試験など	計	評価A	評価B	評価C	評価Dなど
共通科目	哲学	17	筆記	70.6	5.9	76.5	5.9	11.8	58.8	11.8
	ヨーロッパ文学	20	筆記	85	0	85	65	10	10	0
	歴史	11	レポート・試験以外	72.7	9.1	81.8	54.6	9.1	18.2	0
	文化人類学	37	筆記	59.5	8.1	67.6	24.3	13.5	29.7	24.3
	心理学	128	筆記・レポート	94.5	1.6	96.1	62.5	16.4	17.2	1.6
	芸術論	28	レポート・試験以外	92.9	0	92.9	35.7	14.3	42.9	0
	人文地理	89	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
	女性学	23	筆記・レポート	87	4.4	91.3	26.1	43.5	21.7	4.4
	社会思想史	20	筆記	85	0	85	80	0	5	5
	アメリカ研究	6	筆記	100	0	100	100	0	0	0
	くらしと経済	27	筆記・レポート	96.3	0	96.3	92.6	0	3.7	3.7
	くらしと法律	40	レポート	92.5	0	92.5	65	22.5	5	2.5
	化学	15	筆記・試験以外	73.3	0	73.3	20	40	13.3	0
	地球のサイエンス	7	筆記	71.4	0	71.4	14.3	57.1	0	28.6
	環境のサイエンス	57	試験以外	100	0	100	56.1	33.3	10.5	0
	生命のサイエンス	45	筆記	93.3	0	93.3	46.7	22.2	26.7	0
	スポーツと文化	121	レポート・試験以外	97.5	1.7	99.2	9.9	31.4	57.9	0.8
	海外研修	13	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
	英語Ⅰ	206	筆記・レポート・試験以外	96.1	1	97.1	62.6	22.8	11.7	0
	英語Ⅱ	136	筆記・レポート・試験以外	86	0	86	48.5	20.6	16.9	0

仏語	演習	95	筆記・レポート	96.8	1.1	97.9	94.7	2.1	1.1	2.1
中国語	演習	28	筆記	85.7	0	85.7	39.3	42.9	3.6	0
体育実技Ⅰ	実験	211	レポート・試験以外	91.9	1.9	93.8	59.2	19.9	14.7	1.9
体育実技Ⅱ	演習・実験	63	レポート・試験以外	90.5	0	90.5	30.2	28.6	31.8	0

(各授業科目の履修人数は保育科、キャリアデザイン学科をあわせた数字である。)

## 2. 保育科 19 年度入学生の単位認定状況表

授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の取得状況%			最終の評価%			
				本試験	再試験など	計	評価_A	評価_B	評価_C	評価_Dなど
保育者論	講義	119	レポート	93.3	3.4	96.6	32.8	51.3	12.6	3.4
教育原理	講義	115	レポート	100	0	100	62.6	37.4	0	0
教育心理学	講義	119	筆記	84	13.5	97.5	37.8	27.7	31.9	2.5
保育課程総論	講義	220	筆記・レポート	76.8	16.4	93.2	13.6	30	49.6	6.8
保育内容の基礎	演習	103	筆記	92.2	7.8	100	43.7	36.9	19.4	0
健康指導法Ⅰ	演習	117	筆記	86.3	13.7	100	41	29.9	29.1	0
健康指導法Ⅱ	演習	103	筆記・試験以外	100	0	100	66	26.2	7.8	0
人間関係指導法	演習	103	筆記・レポート	96.1	3.9	100	57.3	27.2	15.5	0
環境指導法	演習	105	レポート・試験以外	100	0	100	22.9	41.9	35.2	0
言葉指導法	演習	119	筆記・レポート	96.6	0.8	97.5	34.5	40.3	22.7	2.5
音楽表現指導法Ⅰ	演習	119	筆記	98.3	0	98.3	95	3.4	0	0
音楽表現指導法Ⅱ	演習	115	筆記	100	0	100	94.8	5.2	0	0
造形表現指導法Ⅰ	演習	119	試験以外	98.3	0	98.3	20.2	68.9	9.2	1.7
造形表現指導法Ⅱ	演習	115	筆記・試験以外	100	0	100	48.7	45.2	6.1	0
臨床心理学	演習	105	レポート・試験以外	98.1	0	98.1	98.1	0	0	1.9
総合演習Ⅰ	演習	119	筆記・レポート・試験以外	93.3	5	98.3	4.2	87.4	6.7	1.7
総合演習Ⅱ	演習	118	筆記・レポート・試験以外	98.3	0	98.3	94.1	3.4	0.9	1.7
教育実習	実験	116	試験以外	0	0	0	0	0	0	0
教育実習(事前事後指導)	講義	115	試験以外	0	0	0	0	0	0	0
音楽言語概論	演習	47	レポート・試験以外	93.6	0	93.6	27.7	66	0	6.4
器楽Ⅰ	演習	142	筆記・試験以外	78.2	0	78.2	28.9	28.9	20.4	21.1
声楽	演習	110	筆記	99.1	0	99.1	21.8	73.6	3.6	0.9
基礎造形	演習	119	試験以外	98.3	0	98.3	32.8	63	2.5	1.7
幼児体育	演習	119	試験以外	98.3	0	98.3	93.3	5	0	1.7
児童文学	演習	103	レポート	95.2	4.9	100	11.7	62.1	26.2	0
保育実習(保育所)	実験	108	試験以外	93.5	0	93.5	0	0	0	6.5
保育実習(施設)	実験	108	試験以外	93.5	0	93.5	0	0	0	6.5
保育実習(事前事後指導)	講義	106	試験以外	95.3	0	95.3	0	0	0	4.7
発達心理学	講義	115	筆記	93	7	100	29.6	39.1	31.3	0
児童福祉	講義	119	筆記	80.7	16	96.6	43.7	16	37	2.5
社会福祉	講義	103	レポート・試験以外	84.5	13.6	98.1	28.2	28.2	41.8	1.9
社会福祉援助技術	演習	105	筆記・試験以外	84.8	13.3	98.1	22.9	38.1	37.1	1.9
保育原理	講義	119	筆記	78.2	18.5	96.6	25.2	21	50.4	3.4
養護原理	講義	115	筆記・試験以外	76.5	20	96.5	25.2	32.2	39.1	3.5
精神保健	講義	115	筆記・レポート	94.8	5.2	100	20	60	20	0
小児保健	講義	106	筆記・試験以外	84.9	11.3	96.2	20.8	61.3	14.2	3.8
小児保健実習	演習・実験	103	筆記・レポート	85.4	14.6	100	19.4	37.9	42.7	0
乳児保育	演習	105	筆記・レポート・試験以外	83.8	13.3	97.1	17.1	30.5	49.5	2.9
小児栄養	演習	105	レポート・試験以外	98.1	0	98.1	21.9	31.4	44.8	1.9
保育実習Ⅱ	実験	98	試験以外	95.9	0	95.9	0	0	0	4.1
保育実習Ⅲ	実験	7	試験以外	85.7	0	85.7	0	0	0	14.3

生涯発達心理学	演習	0		0	0	0	0	0	0	0
養護内容	演習	105	筆記	82.9	16.2	99.1	25.7	32.4	41	1
障害児保育	演習	104	レポート	100	0	100	100	0	0	0
児童文化Ⅰ	演習	15	レポート・試験以外	73.3	0	73.3	66.7	6.7	0	6.7
児童文化Ⅱ	演習	3	レポート・試験以外	100	0	100	100	0	0	0
子どもと造形Ⅰ	演習	15	レポート・試験以外	93.3	0	93.3	46.7	40	6.7	0
子どもと造形Ⅱ	演習	7	レポート・試験以外	100	0	100	100	0	0	0
器楽Ⅱ	演習	92	筆記・試験以外	98.9	0	98.9	47.8	35.9	15.2	1.1
器楽Ⅲ	演習	95	筆記・試験以外	99	0	99	59	33.7	6.3	1.1
家族援助論	講義	104	レポート	100	0	100	77.9	15.4	6.7	0
子どもとスポーツ	演習	52	試験以外	98.1	0	98.1	75	21.2	1.9	1.9
レクリエーション指導法	演習	31	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
現代子ども論	講義	40	レポート	92.5	2.5	95	57.5	27.5	10	5
日本国憲法	講義	119	筆記・レポート	96.6	0.8	97.5	60.5	30.3	6.7	2.5
コンピュータ概論	演習・実験	120	筆記・レポート・試験以外	96.7	0	96.7	47.5	41.7	7.5	3.3
基礎演習	演習	119	レポート・試験以外	99.2	0	99.2	99.2	0	0	0.8
特殊演習	演習	107	筆記・レポート・試験以外	96.3	0	96.3	83.2	8.4	4.7	3.7

### 3. キャリアデザイン学科 19 年度入学生の単位認定状況表

授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の取得状況%			最終の評価%				
				本試験	再試験など	計	評価A	評価B	評価C	評価Dなど	
学 科 科 目	キャリアデザイン論Ⅰ	講義	89	レポート	83.2	3.4	86.5	30.3	34.8	21.4	13.5
	キャリアデザイン論Ⅱ	講義	90	レポート	85.6	4.4	90	62.2	7.8	20	10
	ビジネスナー演習	演習	88	筆記・レポート	80.7	9.1	89.8	39.8	34.1	15.9	10.2
	日本語表現Ⅰ	演習	89	レポート	89.9	0	89.9	29.2	43.8	16.9	10.1
	日本語表現Ⅱ	演習	89	筆記・レポート	91	3.4	94.4	47.2	30.3	16.9	5.6
	ゼミナルⅠ	演習	87	筆記・レポート	96.6	1.2	97.7	67.8	14.9	14.9	2.3
	ゼミナルⅡ	演習	87	レポート	93.1	0	93.1	81.6	9.2	2.3	6.9
	企業組織とキャリア	講義	36	筆記	80.6	2.8	83.3	44.4	16.7	22.2	16.7
	シエンターとキャリア	講義	43	レポート	90.7	0	90.7	23.3	41.9	25.6	9.3
	仕事とキャリア	講義	58	レポート	77.6	3.5	81	20.7	22.4	37.9	19
	情報処理論	講義	43	筆記	97.7	0	97.7	41.9	46.5	9.3	2.3
	コンピュータ概論	講義	43	筆記	79.1	2.3	81.4	25.6	27.9	27.9	18.6
	表計算演習Ⅱ	演習	20	筆記・レポート	80	0	80	35	40	5	20
	データ処理演習	演習	19	試験以外	100	0	100	84.2	10.5	5.3	0
	情報機器プレゼンテーション演習	演習	5	筆記	100	0	100	60	40	0	0
	ウェブデザインⅠ	講義	15	筆記・レポート	80	0	80	60	6.7	13.3	20
	ウェブデザインⅡ-1	演習	6	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
	ウェブデザインⅡ-2	演習	6	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
	デザイン論	講義	9	試験以外	88.9	0	88.9	88.9	0	0	11.1
	情報社会論	講義	51	試験以外	96.1	0	96.1	25.5	54.9	15.7	3.9
	経済学	講義	12	筆記	91.7	0	91.7	16.7	25	50	8.3
	金融論	講義	20	レポート	85	0	85	35	50	0	15
	保険論	講義	23	試験以外	95.7	0	95.7	47.8	39.1	8.7	4.4
	ファイナンシャルプランニングⅠ	演習	3	試験以外	33.3	0	33.3	33.3	0	0	66.7
	経営学	講義	46	レポート	82.6	0	82.6	23.9	41.3	17.4	17.4
	簿記論	講義	15	筆記・レポート	80	0	80	60	13.3	6.7	20
	会計学	講義	6	筆記	100	0	100	83.3	16.7	0	0
	ビジネス実務総論Ⅰ	講義	48	筆記・レポート	87.5	2.1	89.6	31.3	47.9	10.4	10.4
	ビジネス実務総論Ⅱ	講義	15	筆記	93.3	0	93.3	60	26.7	6.7	6.7
	生活環境論	講義	30	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
社会環境論	講義	29	レポート	79.3	0	79.3	58.6	3.5	17.2	20.7	

生活文化総論	講義	20	レポート	80	0	80	40	35	5	20
服飾文化論	講義	26	レポート	80.8	0	80.8	30.8	30.8	19.2	19.2
ファッションマーケティング	講義	25	レポート	76	0	76	32	36	8	24
ファッション商品論	講義	8	レポート	75	0	75	62.5	12.5	0	25
フードサイエンス	講義	7	レポート	42.9	0	42.9	42.9	0	0	57.2
食生活実習	実験	14	レポート	100	0	100	50	42.9	7.1	0
インテリアプランニング	講義	21	試験以外	100	0	100	47.6	28.6	23.8	0
CAD演習	演習	1	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
解剖生理学	講義	21	筆記・レポート	76.2	9.5	85.7	33.3	9.5	42.9	14.3
医薬と検査	講義	26	レポート	88.5	0	88.5	50	34.6	3.9	11.5
医療事務総論	講義	20	筆記	90	0	90	35	45	10	10
医療事務演習	演習	23	筆記	87	0	87	13	56.5	17.4	13
社会福祉論	講義	9	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
介護概論	講義	9	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
高齢者・障害者の理解	講義	9	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
介護技術	演習	9	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
介護実習	実験	9	筆記	100	0	100	100	0	0	0
青年心理学	講義	34	筆記・レポート	73.5	0	73.5	44.1	5.9	23.5	26.5
英語表現Ⅰ	講義	6	レポート	100	0	100	100	0	0	0
英語表現Ⅱ	講義	9	レポート	88.9	0	88.9	33.3	22.2	33.3	11.1
検定英語Ⅰ	演習	4	筆記	100	0	100	100	0	0	0
検定英語Ⅱ	演習	5	筆記	100	0	100	80	20	0	0
観光地理	講義	3	試験以外	100	0	100	0	100	0	0
観光と歴史	講義	12	試験以外	83.3	0	83.3	33.3	41.7	8.3	16.7
ワープロ演習	演習	47	試験以外	95.7	0	95.7	72.3	14.9	8.5	4.3
表計算演習Ⅰ	演習	36	筆記・レポート	86.1	0	86.1	50	22.2	13.9	13.9
海外語学研修	演習	5	試験以外	100	0	100	0	0	0	0
公務員受験Ⅰ-1	演習	17	筆記・レポート	88.2	0	88.2	88.2	0	0	11.8
公務員受験Ⅰ-2	演習	1	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
公務員受験Ⅱ-1	演習	3	試験以外	100	0	100	33.3	66.7	0	0
公務員受験Ⅱ-2	演習	2	筆記	100	0	100	100	0	0	0
編入英語	演習	0		0	0	0	0	0	0	0
ワープロ検定3級	演習	32	試験以外	87.5	0	87.5	65.6	12.5	9.4	12.5
ワープロ検定2級	演習	45	試験以外	88.9	0	88.9	75.6	13.3	0	11.1
簿記検定3級	演習	15	レポート	66.7	0	66.7	40	20	6.7	33.3
簿記検定2級	演習	3	筆記	100	0	100	100	0	0	0
秘書技能検定3級	演習	17	筆記・レポート	88.2	0	88.2	52.9	35.3	0	11.8
秘書技能検定2級	演習	10	レポート	90	0	90	30	60	0	10
販売士検定3級	演習	9	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
ファッション販売能力検定3級	演習	20	レポート	70	0	70	50	20	0	30
ファッション販売能力検定2級	演習	5	試験以外	100	0	100	100	0	0	0
色彩能力検定3級	演習	38	試験以外	92.1	0	92.1	52.6	23.7	15.8	7.9
福祉住環境コーディネーター検定	演習	6	試験以外	100	0	100	50	0	50	0
ファッション入門	講義	6	試験以外	100	0	100	83.3	16.7	0	0
キャリアデザイン演習	演習	89	レポート	95.5	0	95.5	43.8	41.6	10.1	4.5
キャリア開発Ⅰ	演習	87	筆記・レポート	92	2.3	94.3	55.2	26.4	12.6	5.8
キャリア開発Ⅱ	演習	86	筆記	83.7	8.1	91.9	31.4	33.7	26.7	8.1
アナウンス基礎	演習	7	試験以外	100	0	100	71.4	28.6	0	0
アナウンス応用	演習	12	筆記	91.7	8.3	100	33.3	41.7	25	0
放送と文学	講義	11	試験以外	100	0	100	81.8	18.2	0	0
放送と芸術	講義	11	筆記	100	0	100	100	0	0	0
市民とマスコミ	講義	3	試験以外	100	0	100	66.7	33.3	0	0

私のマスコミ論	講義	9	筆記	100	0	100	66.7	33.3	0	0
ボランティア活動I	演習	0	活動実績	0	0	0	0	0	0	0
ボランティア活動II	演習	0	活動実績	0	0	0	0	0	0	0
ボランティア活動III	演習	0	活動実績	0	0	0	0	0	0	0
インターンシップ	実験	13	試験以外	76.9	0	76.9	76.9	0	0	23.1
ビジネスコンピューティングI	演習	11	筆記	100	0	100	81.8	18.2	0	0
ビジネスコンピューティングII	演習	15	筆記・レポート	93.3	0	93.3	26.7	66.7	0	6.7
旅行業務取扱管理者	演習	10	筆記	60	0	60	60	0	0	40

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### [保育科長]

単位認定の基準を学科として設けているわけではないが、それぞれの科目の担当者がシラバスにおいてあらかじめ学生に評価基準を周知させており、それにもとづいて評価は適切に行われていると言える。保育者の質の向上が求められる今日、免許や資格に必修の科目についてはそうした社会的な要請に応える保育者を育てるため、授業内容習得の達成水準は高めに設定されている。したがって再履修者の数もそれらの科目では比較的多い。ただ、再履修者に対して特別に補講の時間を設けたり、再試験のための参考資料を示したりするなど、授業担当者も創意工夫をして学生の授業内容の習得を補助しているので再試験が不合格となってしまう学生はわずかである。

これを数字で見ると以下のとおりである。

共通科目については、キャリアデザイン学科の履修者とともに集計されているので、保育科独自の傾向を見ることはできないが、合格率は88%と高率であり、評価についてもA=54%、B=19%、C=17%とA評価が過半数を占めている。単位が認定されなかった学生は12%であった。学科科目についても合格率は共通科目と同じ88%と高率であるが、評価についてはA=43%、B=27%、C=14%とA評価が過半数を占めるまでには至っていない。単位が認定されなかった学生は7%であった。

学生の単位取得状況や成績評価などについては、折に触れて学科会議で話題にされており、問題のある学生については教員間で情報が共有され、そうした学生の学習効果を高めるための対応が可能な基礎的な条件は保証されている。

#### [キャリアデザイン学科長]

将来のキャリアに対して様々な考えを持つ多様な学生が入学してくる本学科では、成績評価も一律には行かず、授業、演習への出席と態度、提出物、レポート、課題制作、試験と多角的に評価をしなければならない。また、学生生活が学業だけではなく、家庭状況やアルバイトとも密接に、また大きく関係している現在の学生に対して、教員は個々の学生の状況に応じて、厳しく或いは親しく柔軟に対応することも求められている。本学科では教授会を始め機会ある毎に学生に関する情報交換の時間を設けており、学生の現実の状況を踏まえた上で、学業に集中させ、その成果が上がるように学生に協力、支援する姿勢を保ちながら個々の科目の評価ができるよう努力している。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学では、各科目のシラバスで成績評価の方法を明記している。評価方法は各科目担当者に任されている。平成19年度入学生の単位認定状況を見ると、共通科目、両学科の学科科目を通じて平均9割弱の学生が単位を取得している。これは少人数教育によりきめ細かな授業を実施していることの成果であると考え。もとより科目により合格率やA評価の割合が異なっているが、現行方法ではそれは自然なことだと認識している。

大切なことは、不合格者のケアである。日頃から両学科において、取得単位数の少ない学生などについて情報交換がされているが、これは有意義なことだと考えている。再履修者などへの補講も個別的になされている。今後は短大全体で学力不足の学生への意識的な取り組みが必要だと考える。

### 【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では平成13年度より各教員の担当科目をひとつ取りあげて学期末に「学生による授業評価アンケート」と教員自身の「自己評価」を実施している。平成19年度はこれらの評価を前期に行った。各教員は自身の授業にたいする学生の評価アンケートを集計し、その結果を授業の改善のために利用している。「学生の満足度」はこのアンケートの調査項目のひとつとして取りあげられている。

◆平成19年度授業評価アンケート用紙 参照

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

[保育科長]

各教員は授業内容の理解度と満足度をほぼ同等に見なしており、これは妥当な態度といえる。学生の授業内容にたいする理解と興味とを高める努力と工夫が熱心になされていると考える。ただし、教育経験の浅い教員と、他大学での以前の経験が本学において十分発揮できない教員に関しては、その思いとは裏腹に十分その効果が得られていない傾向も見受けられた。また、課題を多く課したり、真摯な授業態度を求めたりする教員に対して、学生はその意図や価値の重要性を理解できずに否定的な評価を下す傾向がある。このことは充分考慮に入れておく必要がある。こうした評価の方法においては、学生の満足度の高い授業が必ずしも「良い」授業であるとは評価しきれないという側面もある。

[キャリアデザイン学科長]

各教員の授業評価に対する報告書からは、前年のアンケート結果を踏まえ問題意識を持って授業に臨んでいる様子が伝わってくる。特徴的な点は、授業に積極的に参加する学生がいる一方で、授業に耳を貸そうとしない学生が、アンケート対象の殆どのクラスで見受けられる点である。また、多くの教員が能力、意欲にかなり差がある学生達を、一つのクラスで一律に教えることの難しさに直面している様子がうかがえる。こうした学生、或いは状況に対して教員（集団）がどういふ対策を取るか、或いは取ることが出来るか、我々は教員集団として、常に意識を新たにして、問題を共有しながら、解決に向けて努力を継続しなくてはならないと考える。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学は学生による授業評価を重視し、平成13年以来、毎年アンケート調査を実施している。また、学生アンケートに合わせて教員に対するアンケートを平成18年まで実施してきた。さらに、平成18年より、学生アンケートの結果を受けて、各教員がそれをどう受け止め、今後の授業にどう活かすかを、教員の「自己評価報告書」としてまとめ、提出することとした。

2年間の学生生活が全体として満足の行くものとなるよう、われわれはさまざまな支援を行う必要があるが、とりわけ授業内容の良し悪しは学生の満足度を図るうえで重要なことであると考える。大衆化した大学・短大において、そもそも学生に授業評価能力があるかという根本的な問いかけも見られるが、アンケート結果から学生のシグナルを受け取り、教員は自己満足に終わることなく、授業内容の改善に励まねばならないと考える。

これまでのアンケート結果は比較的高い満足度を表していると考えますが、「不満」を訴える学生の声に耳を傾けねばならないと考える。アンケートの方法にもさらに工夫が必要である。

**【退学、休学、留年等の状況について】**

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

保育科の退学者等一覧表 (平成20年3月31日現在)

区 分	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備 考
入学者数	114	108	119	
うち退学者数	3	5	4	
うち休学者数		3		
休学者のうちの復学者				
うち留年者数		1		
卒業者数	111	102		

キャリアデザイン科の退学者等一覧表 (平成20年3月31日現在)

区 分	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備 考
入学者数	88	108	87	
うち退学者数	10	7	5	
うち休学者数	1		1	
休学者のうちの復学者				
うち留年者数		2		
卒業 者 数	78	99		

(2)退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

過去3年間の退学者について

	キャリアデザイン学科			保 育 科		
	17年度入学	18年度入学	19年度入学	17年度入学	18年度入学	19年度入学
経済的事情	2(20)	1(14)	2(40)	1(33)		1(25)
進路変更	1(10)	4(57)	1(20)	1(33)	3(60)	2(50)
健康上	2(20)				1(20)	1(25)
就職	1(10)	1(14)				
勉強意欲の低下						
一身上の都合	4(40)	1(14)	2(40)	1(33)	1(20)	
合 計	10	7	5	3	5	4

[保 育 科]

退学理由については進路変更が主な理由と言える。取り組みとしては指導教員が中心となり学科の教員全員で対応している。入学前教育・フレッシュマンセミナーなどきめ細かな対応により学科内の教員が連携を取り合いながら出欠状況、授業・実習態度などを把握し、早い段階で学生へのアプローチを行うなど卒業までのモチベーション維持に努めている。

[キャリアデザイン学科]

退学理由については就職も含め、進路変更がこの3年間の主な理由となっている。また経済的な事情も退学理由となっている。退学者・休学者などの指導は、指導教員が中心となり当たっている。入学前教育(2回の課題提出と添削後の返送)では、学ぶための準備と学科のより深い理解を促す取り組みをしている。入学後は新入生オリエンテーションの一環として、学外においてフレッシュマンセミナーを実施し、より早い時期に友人関係を築ける場を提供している。また、日常においては指導教員が中心となって、学科内の教員とも連携を取りながら、授業出欠状態、授業での態度などを把握し、早い段階で学生へのアプローチを行っている。これらにより、微減ではあるが退学者減に繋がっていると考える。

(3)退学・休学・留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

[保育科長]

最近3年間における退学・休学・留年等の現状はつぎのとおりである。

平成17年度入学者114名中退学者3名(2.6%)、休学者なし、留年者なし。

平成18年度入学者108名中退学者5名(4.6%)・休学者3名(2.7%)・留年1名(0.9%)。

平成19年度119名中退学者4名(3.4%)、休学者なし、留年者なし。

過去3年間における中途退学者の平均は3.5%であり、数的には特に問題視するほどではない。しかしながら、実質的には勉学意欲の喪失が退学理由とみられる学生が多い。これは保育職に就くための勉学の厳しさを十分理解していなかったことに起因しているように思われる。高校における進路指導のあり方にも問題があろう。また、高校生を対象とする説明会などの機会を積極的に利用して、保育科で学ぶ内容や方法などについて、短期大学の教員が具体的に解説するという働きかけも必要であろう。

[キャリアデザイン学科長]

キャリアデザイン学科学生数推移は下表のとおりである。但し、

1. 平成19年度退学者数は2008年5月26日現在の暫定値である
2. 入学者数欄( )内の数字は内部校出身者数である
3. 平成17, 18年度の入学定員は250名 同19年度からは200名である

年度 数	平成17年度	平成18年度	平成19年度
入学者数	88 (51)	108 (49)	87 (50)
卒業者数	78	101	84
退学者数	10	7	8

入学者数に対する退学者数は初年度11%強、2年目6.5%、3年目(平成19年度)は9%である。いずれの年も5%を越えており、高い数値である。退学理由は様々であるが、実質的には勉学意欲の喪失が主要な理由である。また経済的理由も目につく。学生の勉学意欲を保つために、入学後の進路設計と、そのために必要な勉学への導入について、学科としてより効果的な支援ができるよう一層の努力と工夫とを積み重ねなければならない。しかし、アルバイトによって学費や生活費を自ら賄わなくてはならないといった経済的な事情と退学とが密接に関連している場合もあり、解決策を見出すことはなかなか難しい。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

「大学の全入時代」を迎え、学力の乏しい学生が入学してくるようになった。それだけ、勉学意欲がもともと低い学生を指導する困難を抱えている。また、学歴そのものが軽く扱われる風潮が生まれており、いとも簡単に勉学を投げ出して中途退学するという事例も見受けられる。

保育科は比較的に退学率が低い。保育者としての使命感が勉学を支えているとおもわれる。学力も比較的に高い。キャリアデザイン学科は退学率が高い。この点の解決は喫緊の課題である。キャリアデザイン学科にももとより優秀な学生が入学している。そして立派な成果を挙げている。しかし、卒業後のビジョンを持たずに入学してくる学生をも受け入れて、立派な社会人に育て上げること、これが当学科の腕の見せ所であってはならない。

いずれにせよ、一人ひとりの学生の声に耳を傾けること、学生が自分の居場所を確保できるよう支援を怠らぬこと、そしてそのための工夫をいっそう図ることが望まれる。

### 【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(7ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

#### 保育学科 資格取得者数一覧表

資格名	17年度		
	卒業者数	取得者数	取得率(%)
幼稚園免許状	181	171	95
保育士資格		167	92
資格名	18年度		
	卒業者数	取得者数	取得率(%)
幼稚園免許状	114	110	97
保育士資格		102	90
資格名	19年度		
	卒業者数	取得者数	取得率(%)
幼稚園免許状	104	96	92
保育士資格		100	96

#### 保育科 資格取得者数

資格名	19年度		
	受験者数	合格者数	合格率(%)
Microsoft Office Specialist 1年	34	20	59

#### キャリアデザイン学科 資格取得者数一覧表

資格名	18年度			19年度		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
日検ワープロ検定3級	8	8	100	18	15	83

日検ワープロ検定準2級	22	18	82	26	17	65
日検ワープロ検定2級	11	5	45	9	4	44
日検ワープロ検定準1級	7	4	57	4	3	75
日検ワープロ検定1級	12	9	75	5	1	20
日検ワープロ検定初段	4	2	50	2	1	50
日商PC検定3級	0					
日商PC検定2級	0					
Microsoft Office Specialist Word	—					
Microsoft Office Specialist Excel	—					
Microsoft Office Specialist 1年				20	14	70
Microsoft Office Specialist 2年				7	4	57
実用英語検定3級	0			0		
TOEIC	0			1	—	
日商簿記検定3級	0			1	1	100
日商簿記検定2級	0			0		
販売士検定3級				8	4	50
販売士検定2級				0		
秘書技能検定3級	4	3	75	15	9	60
秘書技能検定2級	4	1	25	9	1	11
FP技能士検定3級	0			0		
色彩能力検定3級	9	8	89	15	6	40
色彩能力検定2級				1	1	100
ファッション販売能力検定3級	11	10	91	12	6	50
ファッション販売能力検定2級	5	4	80	5	2	40
福祉住環境コーディネーター3級	0			0		
診療報酬請求事務能力認定試験	2	?		0		
総合旅行業務取扱管理者	1	0		0		
国内旅行業務取扱管理者	0			0		
ピアヘルパー	1	0	0	0		
公務員試験1次試験	2	1	50	0		

資格名	18年度 取得者数	19年度 取得者数
上級情報処理士	2	0
情報処理士	9	19

上級ビジネス実務士	0	6
ビジネス実務士	10	18
ウェブデザイン実務士	3	7
医療秘書実務士	13	27
医事コンピュータ実務課程修了証	11	18
訪問介護員2級	3	9

若年者就職基礎能力支援事業 (YES-プログラム)	19年度 修了者数
コミュニケーション能力	48
職業人意識	66
基礎学力(読み書き)	69
基礎学力(計算・計数・数学的思考力)	58
基礎学力(社会人常識)	66
ビジネスマナー	68

[保育科長]

年度ごとで若干のばらつきはあるものの、毎年9割以上の学生が幼稚園教諭二種免許と保育士資格を同時に取得して卒業している。

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

[保育科長]

現在のところ導入を検討している免許・資格はない。

[キャリアデザイン学科長]

平成20年度より「インテリアコーディネーター」の検定受験の準備ができるようカリキュラムを新たに整備した。

### 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

[保育科]

平成 18 年度保育科においては、卒業生 119 名中 99 名が就職を希望し、97 名が就職し、20 名が就職以外の進路を選択した。専門性を生かした職種とは幼稚園教諭、保育園等および養護施設などの保育士をさすが、就職先全体の中でその割合は平成 18 年度は約 90%である。

専門就職状況表 (保育科)

就 職 先	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度
幼 稚 園	31	34
保 育 園	47	42
病 院	4	2
県立養護学校	1	0
老人ホーム・福祉施設	2	1
企 業	11	9
日本郵政公社	1	0
計	97(その内、88.7%が専門職)	88(その内、87.5%が専門職)

[キャリアデザイン学科]

本学科のカリキュラムは特定の分野への就職等を想定したものではない。本学科では、職業人として生きるための職業観の涵養を専門教育の基礎に置き、その上に学習者が多様な進路に共通する知識や技能を修得できるようカリキュラムが構築されている。実際の進路も事務、販売、進学等、多岐に亘っている。

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

[学長]

本学卒業生に対する就職先からの評価であるが、「明るく、素直な性質で、どんなことも前向きにひたむきに頑張ってくれています」、「全体的に安定した良い人材が多い」等、概ね良い人材を採用したとの評価を得ている。ただ、最近の卒業生は以前の卒業生に比べ、コミュニケーション能力が低下している、あるいは職業人意識が希薄化しているとの指摘もある。これに対して、キャリアデザイン学科では昨年度後半より社会人基礎力の育成に着手し、目下本格的に推進している。また保育科では、科長の記述にあるように、卒業生へのフォロー体制を築くべく準備を進めている。

[保育科長]

保育科卒業生で専門職についているものについての事業主へのアンケートによれば、明るく子どもに接し、まじめに勤務をしているとの評価を受けている。また、努力しながら少しずつ向上するひたむきさが好感を持って迎えられている。ただ、若干名は職場における人間関係がうまく構築できず困難さを抱えているようでもある。

本学の特徴である教員との結びつきの良さが卒業後も生きていて、職場での問題解決や、保育の力を増す研究のためにかつて所属したゼミナールの教員やその他の教員に助言を求めようとする卒業生がみられる。そのことは彼らの土曜日などの大学訪問にあらわれている。

なお、卒業生全体へのフォローの機会を設ける計画が進行中である。

#### [キャリアデザイン学科長]

平成 19 年度以前には組織的な調査をしていない。しかし平成 19 年度に行った初めての調査によれば、「安定している」、「よく働いてくれる」、「明るく元気があり良い」といった類の肯定的な反応が多くある一方、「おとなしく元気がない」といった評価もある。教員の目から見た学生はその能力、適性が千差万別であり、社会における卒業生に対する評価もおそらく様々であろうと推測される。我々教員としては日頃の教育活動の結果として個々の学生の能力が伸ばされ、卒業生に対する社会の評価が上がることを望むものである。

- ◆「短大生の社会人基礎力に関するアンケート」結果（本学ウェブサイト「現代GP」） 参照
- ◆「卒業生の就職先が求める社会人基礎力」（平成 20 年 7 月第 1 回社会人基礎力評価ツール開発プロジェクト会議）資料 参照

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

#### [保育科]

卒業生との接触は、上述のように所属したゼミナール教員との継続的な交流がある。その他に、入学直後のオリエンテーション行事である「フレッシュマンセミナー」において、幼稚園教諭および保育士になった卒業生を招き、新入学生に対して幼稚園や保育園での仕事の実話を話してもらっている。新しい学生には年齢の近い先輩からの話で現場の雰囲気がよく感じ取ることができ、非常に好評である。また、卒業生にとっては、自分自身を見直す格好の機会となっているようである。

同じように、1 年前期開講の「基礎演習」においては、後期から行われる学外実習についての現場からの声を聞く機会として、また、「後期就職ガイダンス」においては、就職戦線をどのように乗り切るかという講演をいずれも卒業生を招いて行っている。

大学祭はもちろん、オープンキャンパスなどに自主的に卒業生が来校し、在学生や高校生と自由に話し合う中で彼らに様々な情報を提供する貴重な場を創り出している。

#### 〈卒業生へのアンケート調査の概要〉

平成 19 年度卒業生 115 名に対して、卒業後 1 年に当たる平成 20 年 3 月に往復葉書による学生時代についてのアンケート調査を実施した。回収率は 19%であった。①保育科での学生生活に満足であったかとの問いに対して、95%が「そう思う」、「だいたいそう思う」と答え、高い満足度を示した。②卒業後の進路についても自分にふさわしい進路を見つげられたと答えたものは、「そう思う」=57%、「だいたいそう思う」=38%と、ほとんどが希望をかなえたと答えてい

る。③職場で役立つ実践力が付いたかどうかの評価については「あまり思わない」=19%、「そうは思わない」=10%で約30%は否定的な印象を持っている。④学生時代の人間関係についての問いには、「そう思う」=67%、「だいたいそう思う」=29%と高い率で友人や教職員との好ましい出会いがあったと答えている。⑤現在の職場環境については、②の問いに対してほとんどが自分にふさわしい進路を見いだしたと答えているにもかかわらず、「あまり思わない」=14%、「そうは思わない」=5%と約2割の卒業生が現在の職場に対して何らかの不満を抱いている。⑥在学中の学習態度については「そう思う」=38%、「だいたいそう思う」=24%と6割強がもっと真剣に授業を受けるべきであったと反省している。

#### [キャリアデザイン学科]

平成19年3月、学科開設後最初の卒業生を送り出した。学科の卒業生が円熟するのはこれからであるが、すでにオープンキャンパス、フレッシュマンセミナー等には、在学時の担当ゼミ指導教員らが呼びかけて、先輩として経験を語る講師役を務めてもらったり、またキャリアデザイン支援室講座の講師として招聘したりもしている。

#### 〈卒業生へのアンケート調査の概要〉

平成19年度卒業生78名に対して、卒業後1年に当たる平成20年3月に往復葉書による学生時代についてのアンケート調査を実施した。回答した卒業生は8名、回収率は10.3%であった。これはもちろん十分な数字とはいえないが、貴重な結果が得られたと考える。①キャリアデザイン学科でよく学んだという回答は4人(50%)。②在学中に資格を取得できた学生は5人(62.5%)。③望ましい進路を見つけることができた学生は5人(62.5%)。④社会人としての力を身につけることができた学生は4人(50%)。⑤在学中により出会いがあったと応えた学生は7人(87.5%)。⑥キャリアデザイン学科での2年間が満足すべきものだったと答えた学生は4人(50%)。

短大時代が新しい出会いの場であったという回答が高かったことは、キャリアデザイン学科の財産である。資格取得、進路開拓がうまくいった学生が過半数を超えたことも収穫である。しかし、社会人基礎力の育成、総合的満足度の点で課題を残した。キャリアデザイン学科の社会人基礎力育成プログラムが、今後どのように卒業生から評価されるか期待したい。

◆平成20年3月卒業生へのアンケート用紙 参照

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### [学長]

わが市邨学園は平成18年に創立100周年を迎えた。名古屋を中心として本学園の卒業生は幾世代にもまたがって活躍してきた。本学園の卒業生に対する社会の評価は極めて高いと自負している。それは実学中心のそして個性を尊重した永年の教育の成果である。しかし、すでに述べたように、「大学全入時代」を迎え、大学・短大をめぐる環境は厳しいものがある。そうしたなかでも、

幸い優秀な学生が社会に巣立ち、引き続いて良好な評価を得ている。しかし同時に、社会人としていかに活躍するか、十分なビジョンを描けない学生も在籍している。こうした学生を短い期間ながら一人前の社会人として巣立っていけるよう、いっそうの努力をすることが、本学学生への社会の評価を高めるためにも、喫緊の課題であると考え

[保育科長]

オープンキャンパスに訪れた生徒や保護者への受け答え、入学後の学生との会話、あるいは実習協力園の園長や教諭・保育士との面談、さらに卒業生自身との話など、あらゆる機会を捉えて、本学の社会的評価を聞き取るように努力している。その結果から得られるのは、上述の如く性格が明るく、真面目でひたむきであるという評価が一般的である。しかしながら、一方では業務内容の厳しさや、職場の人間関係を理由に途中で離職する卒業生がわずかながらも存在することから、その評価は相対的に低下してきていると受け止めている。今後は入学後の学生だけにとどまらず、入学前の高校生に対しても出前授業やオープンキャンパスなどの機会をとおして、職業倫理や社会的責任などについての自覚を促すような働きかけの工夫がますます必要であると考え

[キャリアデザイン学科長]

本学科には多様な学生が入学してきている。今までの例を見ると、国立大学へ編入した学生、一部上場企業へ就職した学生もいれば、ニートやフリーターになった学生も若干みられる。従って社会の卒業生に対する評価も多様であろうと推測される。しかし開設間もない本学科は、現在学生の社会人基礎力の育成を最も重要な取組課題としており、そのための教育改善策を講じ、順次その実施に向けて努力している。学生に対する社会の評価はこうした教育改善への取組の結果に対して下されるものとして真摯に受け止め、その結果をさらに改善するべく努力を継続しなくてはならないと考えている。

**【特記事項について】**

(1) この《IV 教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

とくになし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくになし。